

# 令和7年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（概要版）

小豆島町教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象

① 小学校調査 小学校第6学年

② 中学校調査 中学校第3学年

### (3) 調査事項

① 教科に関する調査 ・小学校（国語、算数、理科）・中学校（国語、数学、理科）

② 質問調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

### (4) 調査実施日

令和7年4月14日（月）～令和7年4月30日（水）

### (5) 調査を実施した児童生徒数

① 小学校調査 4校 83人

② 中学校調査 1校 74人

## 2 調査結果の概況

- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」

### (1) 教科に関する調査の全体的な状況

① 小学校

- 国語・・・全国（公立）の平均正答率を下回った
- 算数・・・全国（公立）の平均正答率を下回った
- 理科・・・全国（公立）の平均正答率を下回った

② 中学校

- 国語・・・全国（公立）の平均正答率を下回った
- 数学・・・全国（公立）の平均正答率を下回った
- 理科・・・全体の結果公表なし

## 小学校編

### (2) 課題のあった設問

出題の趣旨		今後の指導で大切にしたいこと
<b>国語</b>	●図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る	○図表があることの利点を実感できるような学習を意識することで、考えの根拠を明確にしたり、読み手に伝わりやすい工夫をしたりできるようにする。
<b>算数</b>	●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを見る	○生活体験と結び付けながら、量感を伴った学習を進めることで、「10%」と「10%増」の違いを理解することができるようになる。
	●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る	○表やグラフの変化を視覚的・直感的に捉える学習を重視することで、数量を対応付けて考える力を身に付けられるようになる。
<b>理科</b>	●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかを見る	○「予想→実験・観察→結果→予想」というサイクルを意識した授業を行うことで、結果から次の実験・観察の計画や条件を考え、予想する、科学的に考える力の基礎を身に付けられるようになる。

子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。子どもたちが学校で学んでいることに関して、ぜひ子どもたちと楽しく話したり、一緒に考えたりしてみてください。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。



### (3) 無回答率（問題に回答しない割合）

状況	今後の指導で大切にしたいこと
<b>全国（公立）の無回答率を下回った（無回答が少なかつた）問題数</b> ○国語・・・14問中 11問 ○算数・・・16問中 10問 ○理科・・・17問中 15問	国語では、漢字を文の中で正しく書く問題で無回答率が高い。学年が上がるにつれ、ICT機器の使用頻度が上がることから、漢字を書く機会が減少していると考えられる。書く活動の時間を保障しながら、既習漢字を使用して文を書くよう指導する。また、教科に関わらず、自分の考えを記述する問題で無回答率が高い。キーワードに印をつけながら文章を読んだり、自分の意見を伝える機会を増やしたりすることで、自信をもって回答することができるようになる。

### (4) 質問調査 ※ 肯定的回答の割合を全国（公立）と比較したもの

状況	今後の指導で大切にしたいこと
<b>自尊意識について</b> ○自分には、よいところがあると思いますか（下回った） ○将来の夢や目標を持っていますか（上回った）	小さな成功体験を積み重ねるなど、児童が自己のよさや成長を味わうことができる場を工夫することで、自尊感情を高める。
<b>規範意識等について</b> ○人が困っているときは、進んで助けていますか（下回った） ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（下回った）	道徳や学活、総合的な学習の時間等において、人とのかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れるようにする。
<b>学習に関する関心・意欲について</b> ○国語の勉強は好きですか（下回った） ○算数の勉強は好きですか（下回った） ○理科の勉強は好きですか（下回った）	効果的にICT機器を活用したり、自分で考え、取り組むことができる児童主体の授業づくりを進めたりするようにする。
<b>家庭における学習習慣等について</b> ○1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（「2時間以上」の回答が下回った）	自分の将来について考えさせることで、目標に向かって主体的に学習する習慣が身に付くようにする。下校後や休日の過ごし方について、家庭で話し合う機会をもつことも大切である。

## 中学校編

### (2) 課題のあった設問

出題の趣旨		今後の指導で大切にしたいこと
<b>国語</b>	●自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる	○話合い活動の際に構成の工夫に着目した振り返りを取り入れることで、話を構成する視点について判断する力を身に付けられるようにする。
<b>数学</b>	●数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	○数に関する事象を考察する際、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめることで、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え方を説明することができるようになる。
<b>理科</b>	●化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	○「課題→予想→計画→実験・観察→結果→考察→課題」というサイクルを意識した授業を行うことで、結果から次の実験・観察の計画や条件を考え、予想する、科学的に考える力の基礎を身に付けられるようになる。

学力向上のためには、学習を習慣化していくことが大切です。小豆島町の子どもはスマートフォンやゲーム等の利用時間が長く、家庭学習の時間が短い傾向にあるので、下校後や休日の時間の使い方を家庭でも話し合っていただき、目標に向かって計画的に学習を継続していくと伸びにつながります。小さな伸びを認めていくことで、継続の意欲も高まります。



### (3) 無回答率（問題に回答しない割合）

状況	今後の指導で大切にしたいこと
<b>全国（公立）の無回答率を下回った（無回答が少なかつた）問題数</b> ○国語・・・14問中 5問 ○数学・・・16問中 2問 ○理科・・・10問中 8問	近年の傾向と比較して、無回答率の高い問題が多くなっている。自力で思考したり、判断したりする活動や読書活動を増やし、定期的に振り返る機会を設定することで、相手の考えを読み取る力を身に付けることができるようになる。また、自分の考えを、ICT機器を用いて表現したり、条件を満たす短作文を書いたりする機会を増やすことで、書くことに対する抵抗をなくし、自信をもって回答することができるようになる。

### (4) 質問調査 ※ 肯定的回答の割合を全国（公立）と比較したもの

	状況	今後の指導で大切にしたいこと
<b>自尊意識について</b>	○自分には、よいところがあると思いますか（下回った） ○将来の夢や目標を持っていますか（下回った）	生徒の自己有用感を高める取り組みを続けるとともに、互いのよさを認め合うなかまづくりを行っていくようになる。
<b>規範意識等について</b>	○人が困っているときは、進んで助けていますか（ほぼ同じ） ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（上回った）	道徳や学活、総合的な学習の時間等において、人とのかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れるようにする。
<b>学習に関する関心・意欲について</b>	○国語の勉強は好きですか（下回った） ○数学の勉強は好きですか（下回った） ○理科の勉強は好きですか（下回った）	効果的にICT機器を活用したり、自分で考え、取り組むことができる生徒主体の授業づくりを進めたりするようになる。また、「現在の学びが将来どのように生きるのか」を伝えていくようになる。
<b>家庭における学習習慣等について</b>	○1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（「2時間以上」の回答が下回った）	自分の将来について考えさせることで、目標に向かって主体的に学習する習慣が身に付くようになる。下校後や休日の過ごし方について、家庭で話し合う機会をもつことも大切である。